

特集

ニュースが報じない アフガニスタンの姿



笑顔とテレビの 間を埋めたい

シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
 高田博嗣 日本放送協会 (NHK) 記者

顔を“タナカ”で真っ白にして微笑む青い服の女の子。

2015年2月、ミャンマー中部の都市ピーにあるヤダナー孤児院で撮った1枚です。バンコク駐在の特派員だったぼくは、アジア地域ディレクターの八木沢さんに誘われて、シャンティが建てた女子寮オープンタイミングで取材に行きました。

孤児院の実態は、衝撃でした。

ミャンマーでは国軍と少数民族の武装組織との戦闘が、今なお各地で続いています。その結果として故郷や家族を失い、行き場をなくして送られてきたのが、目の前にいる200人もの少数民族の子どもたちでした。

「僧侶が辺境を回ってこの子たちを連れてきました。言葉が通じない(=ビルマ語を知らない)子もいました。車に乗ったことがない子もいて、着いた時は多くがひどい車酔いでした」

孤児院を主宰する尼僧ドーナワティリさんは、発足当初を振り返りました。

「ある子がたき火を見て言ったんです。『ここ



上:ミャンマーの孤児院で出会った女の子(2015年撮影) 右:ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで開催されたサッカーフェスティバルでの子どもたちと筆者(2013年撮影)

はいつ燃やされてしまうの?』。その子を抱きしめながら、この子たちの母親になろうと誓ったんです」

印象的だったのは、どの子も振る舞いが明るいことでした。深いトラウマを抱えた子が笑顔になるのは簡単ではないはずですが、ドーナワティリさんの努力に心から敬意を表したい。その思いを込めてテレビリポートを作りました。NHK国際放送で英語でも放送され、シンガポールから寄付が寄せられたと聞きました。少しは貢献できたとはっとした覚えがあります。

でもぼく自身は反省が残りました。テレビには尺の制限、映像とコメントの整合性などさまざまな制約があります。伝えたいことの半分も伝わっていないといつも感じます。去年シャンティの専門アドバイザーにいただき、報道人としてだけでなく、ひとりの人間としても寄り添える立場になりました。青い服のタナカの子の笑顔の意味がもっと伝わるにはどうすればいいか、皆さんと一緒に考え、実行したいと思っています。



「アフガニスタン」と聞いて、一番最初に何が思い浮かびますか？
アフガニスタンは今なお、各地で戦闘が発生し、テロが相次ぎ、隣国からの難民帰還などで情勢が安定せず、国民の80%が何らかの心理的ストレスを抱えていると言われています。
日本で報道されるアフガニスタンに関するニュースの多くは、テロや治安の悪化に関することばかり。今回は、アフガニスタンの人々の暮らしや生活、課題を解決するための取り組み、そして平和へ向けた想いについて、現地事務所からお伝えします。

Shanti vol.306 CONTENTS

- 4 特集
ニュースが報じない
アフガニスタンの姿
- 16 世界の絵本を読んでみよう
「アリとオウム」
ミャンマー 2019年
- 18 世界のおやつ旅
ミャンマーのおやつ/ペネジヨ
- 19 世界の現場からAIRMAIL
From 活動の現場 & 現地の子どもリポート
▶ミャンマー・カレン州
- 26 Shanti@Tokyo
- 28 シャンティな人たち
青木 健太
公益財団法人中東調査会・研究員
- 30 ファインダーをのぞいて
「砂漠の真珠、バンデ・アミール湖」
- 31 お知らせ
- 32 道
笑顔とテレビの間を埋めたい
シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
高田博嗣 日本放送協会 (NHK) 記者



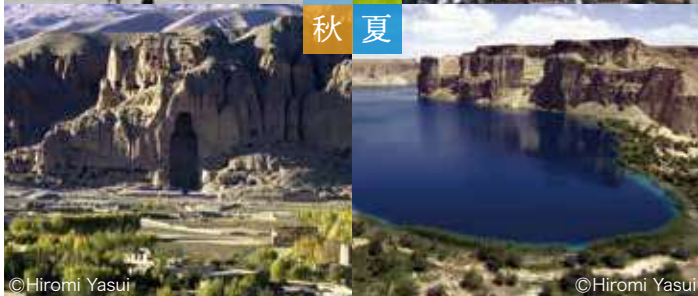
今号の表紙
アフガニスタンの草原 (2005年撮影)
©Hiromi Yasui

特集

ニュースが報じない アフガニスタンの姿



冬
春
秋
夏



美しい アフガニスタンの四季

- 春:モスクの前でハトにエサを配るカブール市民たち
- 夏:「砂漠の真珠」と例えられるアフガニスタン初の国立公園バンデ・アミール湖
- 秋:巨大な仏像があった世界遺産「バミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群」
- 冬:青いタイルで装飾された外観が特徴のマザリシャリフにあるハムラトアリー廟



アフガニスタン東北部、パキスタンと国境を接するヒンズークシ山脈

アフガニスタンの魅力…
秘境の地、ヌーリスタン

「あそこが天国に一番近い
ガーデンといわれています」

案内をしてくれた村人に指をさされた方向をみると、雪がかかる標高4kmはくだらないだろう断崖絶壁の山、頂上より少し手前、円状に突起したところに緑が生い茂っているのが見えます。周辺には木々や植物はまったくない中で、突如その緑のガーデンが現れるのです。その美しさは世界一だといいますが、訪れたことのある人に出会ったことありません。アフガニスタン東北部、パキスタンと国境を接し、ヒンズークシ山脈の山奥に位置するヌーリスタンは、いつか訪れて欲しい名所の一つです。冬場は深雪で閉ざされてしまうこの地域は、アフガニスタンの人々ですら訪れたことがある人は少ない秘境の地です。ヌーリスタンの人々は、金

髪、青緑の目をしている人が多く、パシュトン系の人々とは風貌が異なり、言語も独特です。標高2、3kmに位置する村には、人の手がまったく付けられていない広大な自然の景色が見渡せる共有の客間があり、澄んだ空気、その景色の美しさは息をのむほどです。村に足を踏み入れるとあちこちの家からクルミが投げられてきます。村人なりの歓迎の挨拶だと言います。そば粉でつくられたナンに岩塩を入れたヤギのギー（バターオイル）とチーズ、ドライフルーツでもてなされます。夜には手が届くような満天の星が現れます。時の流れが止まっているような、そんな不思議な感覚になります。訪れた誰もが癒やされる場にしたい、と村人たちは言います。アフガニスタンに来る人々をやさしく包み込むような広大な自然は一度訪れるとその魅力に取りつかれてしまいます。

シャンティの取り組み



学校建設事業

全国にある学校の54%には校舎がありません。シャンティは、教室不足により学習環境が整っていない学校を対象に校舎を設置してきました。



学校図書館事業

図書室設置や、学校教員への研修を通して、子どもたちが言語能力だけでなく想像力や非認知的能力を高められるような児童サービスの普及を行っています。



子ども図書館事業

ナンガハル州にある子ども図書館は、13歳未満の子どもなら誰でも利用できる図書館です。さまざまな理由で学校にいけない子どもたちの受け皿となっています。

実際の取り組み

シャンティはこれまで初等教育の改善を目的とした事業を行ってきました。校舎やトイレの設置による学習環境の改善や、子どもたちの非認知的能力の向上につながる児童図書出版や学校図書室の整備、また子ども図書館の運営により、さまざまな理由で学校に来ることができない子どもにも学習の機会を提供してきました。その結果、絵本を通じた児童サービスが認知されはじまりました。2020年からはこのような活動の普及に力を入れていきます。

建設した学校 = 12校

支援した図書館 = 162館

出版絵本の数 = 103タイトル



アフガニスタンの 抱える問題とシャンティの取り組み

教育事情・難民事情、課題

女子教育が禁止されたタリバン政権が崩壊し、19年がたちました。この間、アフガニスタン政府は教育を通じた国の復興を掲げ基礎教育の整備を進めてきました。その結果、国内にある学校数は約3400校から現在の1万7859校まで増加しました。学校に通うことができている児童・生徒数は当時の9倍である93.8万人に達しました。

教育への関心が高まる一方で、あらたに開校する学校の急増に対応する、教室・備品の整備や教員育成が追い付かず、就学率は思うように改善に至っていません。教育省は、未だ350万人の子どもたちが不就学であると見積もっています。

他方で児童労働や強制移動、児童労働や強制移動、経済的な理由で、就学登録をしたものの欠席が常態化している

る児童は168万人と報告されており、全就学児童数の18・3%に当たります。学校に行くことができない子どもたちは、児童労働や搾取、早婚など社会的課題に直面するリスクも高く、早急な解決が求められています。

近年では長引く紛争やテロ攻撃だけでなく、突発的な干ばつや洪水といった自然災害が多発しており、各地で難民や国内避難民が発生しています。住む場所を追われた人々は、安全な場所を求めて移動を続けており、その先々で、教育や医療といった社会サービスの享受が得られずさまざまな困難に直面しています。

このようにアフガニスタンの子どもを取り巻く状況は複数の課題が絡み合っています。タリバン政権崩壊から19年がたった今でも、子どもたちには教育の機会だけでなく、安全に過ごすことができる場所が必要とされています。

難民支援事業

なぜ活動を行うのか

長年続く紛争や干ばつなど自然災害の影響で、人々は国内外に避難することを余儀なくされています。2019年には、アフガニスタン国内で約44万人の避難民が発生し、その約2割が女性、6割が子どもでした。活動地のひとつであるクナール州は、比較的多くの避難民が移り住む地域です。しかし、保守的な考え方や文化が根強いため、避難民である女性が社会的な差別を受けやすく、外を出歩くことでさえ家族・親族からの許可がいられます。そのような中、女性たちが自身が協力しながら問題を打開していきける力が必要と考え、シャンティは女性センターを設置し、女性の能力強化研修を実施しています。また、避難を余儀なくされた子どもたちは、学校に行けないことで、児童労働、性的虐待、子ども兵などのリ

スクが高くなってしまいました。シャンティは、仮設教室を設置し、算数、パシクトゥー語、書き取り、図工、ライフスキルなどの授業を開催し、子どもたちが安全に学べる環境を提供しています。さらに、避難生活では、水不足が原因で不衛生な環境での生活を余儀なくされており、病気のリスクにさらされています。水不足を解消するためには井戸を開設し、水を有効に使った上での衛生教育・衛生啓発活動を実施しています。



主な支援内容

- 1 女性のエンパワーメント
- 2 仮設教室での就学サポート
- 3 給水用井戸開設・水衛生啓発

実際の取り組み

女性たちが抱える問題を、女性同士で助け合いながら解決できるようになるため、女性センターを開設しました。同センターでは、社会・性的差別、子どもの保護、読み書き、縫製、女性リーダーの知識と技術が学べる研修を行っています。また、避難先で子どもの教育が途切れないようにするため、仮設教室を設置し、政府が指定した教育カリキュラムを提供しています。さらに、水不足が原因となる不衛生な生活環境・病気から身を守るため、衛生啓発および井戸の設置を行っています。



国内避難民 = 43.7万人

帰還民 = 46.5万人

出所：OCHA*Snapshot of Population Movements*
(January to December 2019)

世界の現場から

AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、
アジアの各国で活動する
シャンティの様子や
スタッフを紹介します。

From Karen State, Myanmar

ミャンマー・カレン州

2019年11月からミャンマーのカレン州南東部でコミュニティリソースセンター(CRC)を開所したシャンティ。利用者を増やしていくための活動の様子をレポートします。



◀ 子どもの1日をレポート!

帰還民の支援事業を行っているレイケイコー村。そこに暮らすヌポ難民キャンプから帰還した11歳の女の子の1日に密着しました。



「トンネルをほる」ほるぶ出版

ものづくりの舞台裏をレポート! ▶
CRCに設置するために製作された子どもたちのための家具。その完成までのウラ側をのぞいてみました!



ミャンマー事務所
エディソンさんの
おすすめおやつ

みんなの笑顔をつくる
世界のおやつ旅



おやつのスナックや 料理のトッピングにも♪

ミンガラバー(こんにちは)! 図書館チームのプロジェクトスタッフとして働くエディソンです。ミャンマーの食文化では、スナック類が豊富なのも特徴です。屋台でよく売られているおやつ「ペネジヨ」は、黒豆を揚げたお菓子で、日本のてんぷらに比べると衣はかなり厚めです。サクサクとした食感で、主に朝食や夕方にスナックとして食べます。なまずの出汁で作ったスープにやわらかい米粉の麺の入った国民食「モヒンガー」や魚のスープともよく合います。甘酸っぱいタマリンドソースと野菜と一緒にサラダとして食べてもおいしくですよ。

ミャンマーのおやつ
ペネジヨ

ပုဆိုးကြော်



ミャンマー事務所の図書館チーム
のプロジェクトスタッフとして勤務。



早朝に事務所近くの屋台で販売されています。朝に買ってきて事務所ですべてみんなで食べることも。

Hot Topics



1 情報説明会や周知活動の実施

村の日常生活に必要な情報へのアクセスを改善するため、情報説明会を2つの村で実施しました。レイケイコー村ではミャワディー公共図書館職員を講師に迎え、青年層を対象にした「青少年のドラッグ利用の危険性」について、ゾーゾイーマイン村では子どもの親世代を対象に「読み聞かせがなぜ子どもたちに必要か」について、シャンティ職員が講師となり実施しました。



2 参加者の声

レイケイコー村の情報説明会に参加した17歳の青年からは、「何が良いことで、何が悪いことなのか分かった。年上の人たちやCRC職員たちともっと交流を深めたい」といった感想がありました。周知活動の参加者からは、「CRCは知識を得る場所、みんなが利用できる場所だということが分かった」「CRCをこれからも利用するために、周りの人にも伝えていきたい」と声が上がりました。

3 村の今

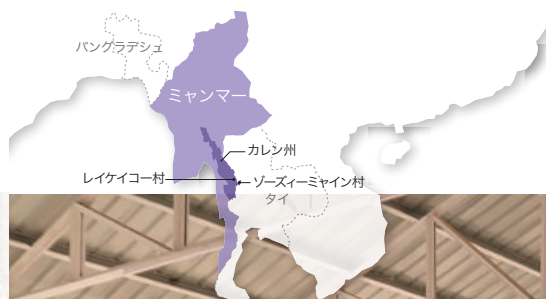
村に主となる産業がないことから、多くの住民が働き先を探しています。帰還民の受入れが始まっているレイケイコー村では、他のNGOの支援を受けながらも、縫製所や休校期間にトレーニングセンターで英語教室やパソコン教室を開講するなど、村独自で村の開発を始めようとしています。

子どもたちの考える力の支えに
私は子どもたちへの読み聞かせの活動にやりがいを感じています。子どもたちにとって、本への興味の扉を開く第一歩であり、一緒に遊び、絵を描いたり、工作などを通じて、楽しみを分かち合うことができます。この活動が子どもたちの考える力、知識、創造性の発達を支えていると信じています。これからも子どもたちのための活動を広げられたら嬉しいです。

ミャンマー国境支援事業事務所
コミュニティリソースセンター担当
ソー・カイン・ゾー・
ウインさん

PROFILE

NGOでのインターンを経験し、タイ・ミャンマー国境の学校で2年間学ぶ。その後、インターンをした団体に職員となり、国際NGOやカレン系の組織で働いた後、シャンティに入職。



From
Karen State, Myanmar
ミャンマー・カレン州

ミャンマー・カレン州のレイケイコー村とゾーゾイーマイン村にてコミュニティリソースセンター(CRC)事業を実施するシャンティ。大切な活動の内容を紹介します。



CRCの活動は多くの住民にとって初めての体験に

政府とカレン民族同盟が停戦合意した後、平和に向けて動きだしたミャンマー。難民キャンプからの帰還民のために多くの準備が必要でしたが、受け入れる村は紛争の影響を受け、交通や教育、医療などを完全に整えることができていません。さらに、帰還民は情報を得る手段がなく、雇用機会が限られ、生活基盤も弱いといった問題にも直面しています。CRCはそうした問題解決に向け、「住民の情報と学習リソースへのアクセスを改善する」ことを目標にスタートしました。現在、大人への本の貸出、子どもたちへの読み聞かせなどの活動に加えて、運営関係者の能力向上を目指し活動しています。CRCにはミャンマーの共通語のビルマ語とカレン民族の母語であるカレン語に翻訳した絵本と、帰還前に学んでいたタイ語を引き続き学びたい方へ向けてタイ語の絵本を配架しています。

私の1日を
紹介します!

おやすみなさい!

21:00 就寝

18:00 自由時間

夕食を食べた後、少し休憩して、遊んでから、宿題を始めます。宿題が無い時はお花に水やりをします。



6:00 起床

礼拝をした後に、顔を洗って、歯を磨きます。その後で、床掃除と皿洗いのお手伝いをします。

17:00 夕食

夕食にはフィッシュペーストと野菜、焼きそばをよく食べます。

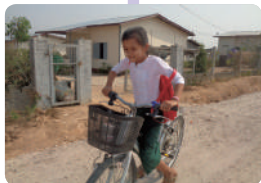


7:00 朝食

朝食にはチャーハンか、栄養ドリンクとお菓子をよく食べます。朝食後、制服に着替え、お弁当箱にご飯を詰めます。

15:15 放課後

学校で国歌が流れたら、自転車で家に帰ります。雨季の時は、お姉ちゃんがバイクで送り迎えをしてくれます。



8:00 登校

登校後、学校の掃除当番になっているときは、校舎の掃除をして、トイレ用の水を溜めます。掃除当番でない時は、縄跳びやサッカーをして友達と遊びます。



12:00 お昼ご飯

お弁当を食べます。卵や茶の葉サラダをご飯と一緒に食べています。



9:00 授業

好きな教科は算数です。私にとっては簡単でとても楽しいからです。

Karen State, Myanmar
ミャンマー国境



国境支援事業
事務所があるのは
こんな街

ミャンマー・カレン州の州都バアン。バアン市内には、バアンの人にとって聖地とも言われる「チャウカラット・バゴダ」というお寺があり、観光地としても有名です。奇岩の上に白い仏塔が建っていて、周辺は池に囲まれています。タイとの国境に近いので、タイからの輸入品が店に置いてあり、市内には多くのタイ料理レストランがあります。



From Karen State, Myanmar ミャンマー・カレン州 現地の子どもリポート

難民キャンプから帰還した11歳の女の子の現在の暮らしに注目しました。その暮らしぶりや、かつて暮らしたキャンプでのお話も紹介します。

ミャンマー国境から
ノー・ロ・ニ・コ・タブリュ・
リ・ドウさん(11歳)がリポート!

CRCCで友達と遊ぶのが楽しみ
将来の夢はお医者さんか歌手!



私はタイとミャンマーの国境沿いにあるレイケイコー村で、お父さん、お母さん、お姉ちゃんと4人で暮らしています。お父さんは違う村の農地で働いていて、お母さんはCRCC運営委員会に所属しています。家の近くに市場と大きな池があって、池の裏の丘に登ったところにCRCCがあります。時間があるときはよくCRCCに通っていて、友達と歌ったり、踊ったりすることを楽しみにしています。
将来の夢はお医者さんと歌手です。お医者さんになったら、人の命を救って、薬を渡して、医療を届けたいです。歌手になったら、音楽とエンターテインメントを作り出し、たくさんの人に幸せと楽しみを届けたいです。

私の
お気に入り

「難民キャンプでの暮らし」



ヌポキャンプで生まれた私にとって、ここは大好きな場所です。気候も良く、友達の家も近くにあり楽しい場所でした。いつでも友達と遊んだり、一緒に散歩することができ、週に一回仏教学校に通うこともできました。図書館で絵が多い漫画を読んだり、パズルが載っている本を読んだりすることも好きでした。



舞台の
ウラ側

2 細かく指定して店へ発注

難民キャンプではさまざまな色の本棚を利用していましたが、住民自身が維持管理しやすいように、CRC用の本棚は色を統一しました。また、キャンプで子どもたちが本棚の端をよくつかんでしまい、本棚への負荷がかかりすぎるがあったので、端の長さを変更しました。大人と子どもの部屋を仕切る目的で部屋の中心に置く本棚は、CRCの窓から入る光を遮らないような高さにするなど工夫をしました。



1 家具づくりの打ち合わせ

本棚は事務所にて、セイラー副所長と家具製作担当ブラウィット職員で相談をして決めます。参考として、難民キャンプで使用している本棚のサイズを再計測した上で、CRCの部屋の大きさや配架する本の種類から本棚のサイズを検討します。検討した本棚のイメージをブラウィット職員が図面におこし、発注する店とやり取りを開始します。タイ・メーソット市内でこのような家具を作る店は1カ所しかありません。テーブルはミャンマー事務所の事業で使用している図面を共有してもらい、レイケイコー村の店に発注しました。



3 完成した家具をCRCへ設置

多くの子どもたちが本棚で好きな本を選んでいきます。テーブルまで本を持ち運んで読む子、本棚のすぐそばに座って読み始める子ども。お絵かきをした後に完成した絵を本棚に置き、子どもたちに見てもらうこともあります。テーブルを利用してCRC職員が子どもたちに寄り添って読み聞かせをしたり、ゲームをしています。

From Karen State, Myanmar ミャンマー・カレン州 ものづくりの舞台ウラ コミュニティ・リソース・センター(CRC)の 子ども用家具

難民キャンプから渡ってきたCRCの子ども用家具。
家具完成までの道のりを紹介します。



オモテ
舞台

これまでの経験を活かして
難民キャンプで使っていた
家具を帰還したミャンマーでも

本の収納以外にも、必要な読み聞かせの道具を収納したり、大人と子ども用に部屋を仕切るためにも活用している本棚。低いテーブルは子どもたちが集まって本を読むため、お絵かきや塗り絵などをするために製作しています。今回本棚は難民キャンプの図書館で使用しているものを参考にし、テーブルはミャンマー事務所の事業で使用しているものと同じものを製作しました。本棚は体の小さな子どもたちが使いやすい高さで、本の表紙を見せることで、本に興味を持ってもらえる工夫をしています。帰還民にとって、慣れ親しんだ難民キャンプの本棚を置くことで、CRCで居心地の良さを感じて欲しいと考えました。

製作秘話 製作して分かった今後の課題



難民キャンプの本棚を作ってくれた店に依頼したので、大きな問題はありませんでした。ただ、キャンプの図書館よりCRCの部屋が広いので、本棚のサイズ決定の際に空間をイメージするのに苦労しました。レイケイコー村に発注したテーブルは、木材の状態が良くなく、ヒビが入ってしまいました。修理の検討と、今後は両事務所の近くの店で製作し、品質を確認できるようにする予定です。現在、ミャンマー・パアンで家具を製作すべく店を調査しています。



Pray for Japan

日本で自然災害が起きた時に、活動地の学校から届いたメッセージ写真。中には10年以上前の支援校からも。これを伝えるのも私の役目です。互いを思う心が繋がり、学び合いが生まれます。支援とは決して一方通行ではなく双方であることを再認識しました。

在宅でできる国際協力

新型コロナウイルス感染拡大による在宅勤務や休校措置で家に居る時間が増える中、ある企業の社員様から「家庭で子どもとできる活動はないか」と声を頂き、「絵本を届ける運動」にお申し込み頂きました。学校に通えない辛さを知ったからこそ、十分に教育が受けられない子どものことを考える良い機会になりました。



絵本1冊で繋がる

今年から「絵本を届ける運動」の法人窓口も担当しています。ワークショップでは、いつもは他部署で互いを知らない社員様が2人で1冊の絵本をつくることも。絵本で海外の子どもと繋がるだけでなく、社員同士が繋がるコミュニケーションやチームビルディングのツールにもなっています。

PROFILE 山室仁子さん

大学院修了後、2カ月の海外事業課インターンを経て、2008年6月に入社。海外事業課カンボジア事業担当、ラオス事務所事業コーディネーター、支援者リレーションズ課で勤務後、現職。



©Yoshifumi Kawabata

ご支援者と海外の活動現場のつながりを感じられる関係づくり

民間ご支援者様対応、営業資金調達、講演など、ご支援者様の窓口を務めています。日本のご支援者様と海外の現場をつなぐ役目をいただき、支援がどう活かされ、どんな良い変化をもたらしているのかなどを、支援活動に関わる教員や子ども、地域住民、教育行政、スタッフのみなさんの声を通して伝えていきます。顔と顔が見える関係づくりを進めながら、支援の満足度を上げることを目指して、シャンティのファンが増えるために自分の役目は何か自問自答を繰り返す毎日です。

私は学生の頃に1カ月間、カンボジア事務所の研修生としてシャンティの活動に参加しました。周囲を巻き込んでみんなで作り上げていくような、プロセスを重んじた支援活動を見て、草の根だからこそできる支援活動の尊さを肌で感じたことが入職のきっかけとなりました。現在、業務を通して多種多様な方に出会えて、草の根の力を実感するとともに、私自身の人生を豊かにしていただいています。

私は学生の頃に1カ月間、カンボジア事務所の研修生としてシャンティの活動に参加しました。周囲を巻き込んでみんなで作り上げていくような、プロセスを重んじた支援活動を見て、草の根だからこそできる支援活動の尊さを肌で感じたことが入職のきっかけとなりました。現在、業務を通して多種多様な方に出会えて、草の根の力を実感するとともに、私自身の人生を豊かにしていただいています。

シャンティは来年40周年を迎えます。これまでご支援者様や諸先輩方が築き積み上げてこられたことや、支援という形で蒔いた種が着実に実ってきていることをしっかりと伝えて未来に繋げていきたいです。

日本各地のご支援者様とお会いする機会も多く、四季折々の日本を五感を通して知ることができるのもうれしいです。

出張で日本各地のご支援者様とお会いする機会も多く、四季折々の日本を五感を通して知ることができるのもうれしいです。

山室さんのお気に入りアイテム 【クラフトエイドの商品と地図アプリ】

バッグやアクセサリなどクラフトエイドの商品は、使いやすく普段から身に着けています。営業など対外業務ではさりげなくアピールすることも。また、スマホの地図アプリは、方向音痴ということもあって、ご支援者様訪問で初めての土地に赴く際の必須アイテムです。





川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。

シャンティからのお知らせ

日本国内で新型コロナウイルス関連事業を6月から開始

新型コロナウイルスの影響を受け、ストレスを抱えやすい日本の子どもたちの心のケアを目的とした絵本や学習キットを配布する事業を開始しました。

緊急事態宣言が解除されたとは言え、分散登校や授業短縮などで学校以外の時間は増えており、家庭環境による教育の格差が問題となっています。特にサポートが必要なひとり親家庭や生活保護家庭、外国にルーツのある家庭、被災家庭などの子どもたちを対象に、自宅で学べるワークキットや絵本を配布をしています。

配布するワークキットや絵本を通じて、子どもたちのストレスの緩和や、海外の教育事情について学び、同じ立場の子どもたちの様子を知ってもらうことを目的としています。

参加した子どもたちの感想文や絵は、オンライン上で共有し、お互いの状況を知り、繋がりを持つことで、子どもたちの不安を解消することを目指します。

対象地域: 東京都と、過去に災害支援などで活動を実施した地域

配布品目: 絵本、ワークキット、えんぴつ、色鉛筆、ノートなど

「コロナ国内緊急募金」受付中

郵便振替：00170-8-397994

加入者名：SVA緊急救援募金

*通信欄に「コロナ国内緊急募金」とご記載ください。

*本口座への振込手数料はご負担をお願いします。

人事のお知らせ

●異動

栗本 愛 事業サポート課
→地球市民事業課 緊急救援チーム(4/1付)

●入職

芦田 雄太 地球市民事業課 海外緊急救援担当(4/1付)
松本 侑子 事業サポート課 海外事業担当(5/25付)

●退職

柴田 茂寛 事業サポート課 海外緊急救援担当(5/31付)

編集後記

緊急事態宣言が発令中の約1か月半、保育園の登園自粛要請を受け、我が家は自宅保育を行っていました。4月に3歳となった息子は「魔の2歳児、悪魔の3歳児」と呼ばれる絶賛イヤイヤ期。口が達者になり、難儀することも増えましたが、保育園にいる間は見る事ができない成長を感じられた期間でもありました。(召田安宏)

シャンティ 2020年夏号(通巻306号) | 2020年7月1日発行

発行人：若林恭英

発行所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB：www.sva.or.jp E-Mail：info@sva.or.jp

編集人：山本英里、鈴木晶子

編集・制作：株式会社文化工房

印刷：株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



バンデ・アミール国立公園は五つの湖が集まって形成されています。



上：バンデ・アミール湖はお椀型をしており、水があふれ出ています。

下：冬のパミーヤン遺跡。

砂漠の真珠、バンデ・アミール湖

紛争の印象が強いアフガニスタンですが、観光ポイントがいくつも存在します。その一つがバンデ・アミール国立公園です。

古代遺跡で有名なパミーヤンから西に約80km、山々に囲まれた、標高3000mの高原に存在するのがバンデ・アミール湖。ラピスラズリが溶けたかのような瑠璃色の湖面が印象的で、「砂漠の真珠」と形容されます。周囲にはチャイ屋さんやボート貸しの業者さんがいて、のんびりと過ごすにはもってこい。ここでは争いで蝕んだ心を癒やす憩いの場所なのかもしれません。

ただ、湖畔にはゴミや糞がちらばっていて避けながら歩くのが大変。観光産業としての可能性を大いに秘めたアフガニスタン。いつか二層美しくなった同地を再訪してみたいです。

